

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関先及びユニットフロアに掲示しており、ユニット会議の時には全員で唱和をしています。	理念については月1回のユニット会議で確認・唱和するとともに「心と心の繋がり」を大切に日々活動し、施設長と職員は理念の実践に向けた話し合いをし共有に努めている。また、玄関には理念を初めとした情報が開示されておりホームの地域の人々への姿勢が見て取れる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園年中さんとの交流も定着し、お返しに利用者として作った折りゴミ箱をお届けしています。今年度より、地域のいきいきサロンにも参加させて頂いています。	地元の自治会主催のいきいきサロンに月2回参加している。毎回、2～3名位の利用者が参加し好評で、その他自治会行事についても開催案内があるので可能な限り参加していきたいと考えている。年4回、近くの保育園との交流も続いており、利用者が広告で作るゴミ箱もおみやげとして好評である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の建設会社という利を活かして、福祉関係以外の方も多く来所してもらっています。地元プロ歌手や落語家の公演時には地域の方を招待する取り組みも行っています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月間の実践状況を伝えるのに加えて、会議の中で紹介して頂いた地域のいきいきサロンに利用者を連れて参加しています。	会議は偶数月の第3木曜日の午後7時より、家族、自治会長、民生委員、有識者、市職員等が参加し開催され、近況報告や意見交換が行われている。頂いた意見についてはホーム内で検討し、ホームのマンパワーアップに役立てている。また、会議の内容が盛り込まれた議事録も利用者の家族に配布し開示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーであり、市の介護サービス相談員訪問の利用で、利用者の状況を把握してもらい、問題が起きた時は速やかに解決が図れる体制をとっている。	当ホームの利用者については市からの紹介で入居されるので市との繋がりは強い。また、2ヶ月に一回、2名の介護サービス相談員も来訪し個々の利用者の相談を受けたり、相談後の助言をいただき内容を検討し運営に活かしている。介護認定調査の面談については家族にも可能な限り同席していただきホームで行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体状況を共有し、事故予防目的で、各利用者にとって、どの方法が一番のケアに繋がるか、その場合は拘束になるか？を常に話し合い、家族の理解を得てから、現状を報告して、拘束にならない様に努めている。	身体拘束をしないケアをどのようにしたら良いか勉強会を定期的に開催し全員の理解を深めている。玄関は建物の工夫により施錠はしていない。見守りの中でまず利用者がけがをしないことを第一に考えたケアを実践しており、利用者の「睡眠中のベッドからの転落を避けるため」家族と話し合いの結果ベットの柵をしている利用者もいるが、できるだけ解除へむけて検討を加えている。	

認知症グループホームたのしや駒ヶ根・いちいユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束と高齢者虐待については、スタッフ全員がもっと勉強が必要だと痛感しているので、今年度は集中して内部、外部含め研修を進めていきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、利用者の中で数名利用者がいる。中には、利用を勧めた人もいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年11月に、家族会と称した管理者、職員と家族との意見交換会があります。	自分の思いを表現できる利用者はほぼ半数ほどいる。自分一人で暮らせるのに何故ここに居るのかと思っている利用者もあり、職員の動向を常に見ている利用者もいるので、利用者に寄り添い要望を汲み取りながら支援している。家族の来訪は平均週1~2回位あるが、年1回実施される家族会において報告や連絡、相談をし、家族との繋がりを深め運営に役立てている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議で、職員の意見を出しやすい雰囲気作りに努めていて、意見が運営に反映しやすいようにしています。	月1回ユニット会議を実施し職員の意見交換を積極的に行い運営に役立てるとともに、代表者、施設長からも運営上の話をし意思疎通を図っている。また、日常的なOJTとともに年1回、代表者と施設長による個人面談も行われている。資格取得も推奨されており研修を受け「介護予防運動指導員」資格を取り利用者の身体機能維持に活躍している職員もいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一年に1回社長、施設長と職員との個別面談があり、個々の自己評価及び目標設定や意見を吸い上げる様努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケア研修や介護研修に積極的に参加してもらい、職員の質の向上に努めている。		

認知症グループホームたのしや駒ヶ根・いちいユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の他のホームとの情報交換やその職員との交流を深めるべく、こちらの行事にお誘いして、利用者同士の交流も図っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れて頂くまで、家族にも協力を願って、集中して見守り&ケアに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を決めるまでの経緯と家族の本人への気持ちを受け止めて、共有して、まず家族に安心してもらえる様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と分かった時に、その都度本人家族も含め話し合い、早めのサービス導入に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に本人の意志を尊重できるように心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に常に今の状態を知って頂くことで、家族の協力がなしには認知症のケアが成り立っていかない事を知って頂くよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友達との食事外出の支援を積極的に働きかけています。	親戚や馴染みの友達と食事に出掛ける利用者もあり、また、近所の方の来訪を受ける利用者もいる。週末に2泊3日で自宅に帰り、家族との絆を大切にしている利用者もいる。馴染みのスーパーへホームの食材の買い出しに行く時に出来るだけ多くの利用者を一緒にお連れしている。	
21		○利用者同士の関係の支援			

認知症グループホームたのしや駒ヶ根・いちいユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が支えあえる様な関係ができるように関係作りに努めています。		